

地域づくり団体 全国研修交流会 鳥取大会

2012.9.29-30



nichinan town



kurayoshi city



utsubuki doushi bayashi



yurihama town



shan shan kasadori

日本一小さな県から大きく発進 ～集い・語り・紡ぐ～

「日本一小さな県から大きく発進～集い・語り・紡ぐ～」をテーマに、鳥取県で第30回地域づくり団体全国研修交流会が開催され、34都府県から地域づくりに取り組む270名が参加しました。

1日目は鳥取県中部に位置する倉吉市において全体会が開催され、平井伸治鳥取県知事をはじめ、関係者各位より挨拶がありました。

平井知事からは「鳥取県では、街中・福祉・農業を結びつけた実験的なまちづくりを展開しているところもあれば、古い街並みを活かしたまちづくりに興味を持った劇団が丸ごと引っ越してきて賑わいが生まれたところもある。まちづくりの種は鳥取県にたくさんあるので、本大会ではそんな地元のエスプリを感じてもらえればと思う」と挨拶がありました。

そんな鳥取県に古くから伝わる郷土芸能と

して、倉吉市に伝わる打吹天女と童子の物語を伝承した「打吹童子ばやし」や、沢山の鈴がついた鮮やかな傘を持ちながら踊る「しゃんしゃん傘踊り」も披露され、会場を盛り上げました。

さらに、参加者全員で鳥取市出身の岡野貞一氏が作詞をした「故郷」を合唱し、会場に一体感をもたらしました。

また、全体会の中で、鳥取県の地域づくりの事例についてトークセッションが行われました。コーディネーターに福田京子大会実行委員長、パネリストに吉野立さん（特定非営利活動法人地域福祉ネット）、佐々木千代子さん（特定非営利活動法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会）が招かれ、各々のこれまでの活動事例や今後の展開が語られました。その概要については、次のページでお伝えします。



活動内容について

吉野：米子市は中心市街地のゴーストタウン化が危惧されており、このままではお年寄りが地元で暮らせなくなるといふことで、商店街の中にデイサービスとコミュニティ施設が一体になった施設を整備しました。また、商店街の施設「笑い庵」の再生にも取り組み、「笑い庵」を障がいのある人の仕事場や地域の交流の場として運営しています。

佐々木：400年前から伝わる鹿野まつりに合うまちづくりをコンセプトに、街並み再生事業に取り組んでいます。行政にはハードの整備や助成等を行ってもらい、我々は景観を綺麗に保つため、地域の人



地域交流センター 笑い庵

【 TALK SESSION 】

最初は小粒でも 大きく育つ地域力



にのれんや火鉢等を家の軒先に出してもらうなどの協力をお願いかけています。最近では学生を中心としたワークショップ等を展開するにつれ、若い人たちが鹿野に住みたいと言ってくれるようになってきています。

他地域との連携について

吉野：1つのNPOは大きくなると、その規模を維持しようとして組織が硬直しがちです。そうではなくて、それぞれがゆるやかに連携していきながら全体的な構想を掲げ、新たな団体になっていければ良いと思います。

佐々木：無理矢理自分たちの中に引き込むのではなく、協



いんしゅう鹿野盆踊り

力を求めるスタンスが大切です。自分たちの地域を良くしたいという共通の認識があれば、結果的に団体が集まってきます。また、若い人がある集団には、若い人たちが寄ってきます。そういった若い人たちを引き込む仕掛けをつくることも大切です。

今後の展開について

吉野：地域の生活レベルを一定に保つ取り組みを行うとともに、住んでいる人のニーズに応えられる地域の仕組みづくりを進めたいです。

佐々木：これまでのノウハウを使って地域コーディネーターを育てるとともに、空き家や施設を活用しつつ、新しいコミュニティを作りたいです。

福田：県内各地の魅力ある取り組みが全国にアピールできるものに育っているので、自分たちのコンセプトを守りながら活動を広げていっていただければと思います。